

百姓屋つぐみ

なんで農家になったのか？そう聞かれるといつも答えに困ってしまう。言葉にするのが難しい。かといってそんなに深い事情があるわけでもない。なんとなくそう思ったというのが一番しっくりくる。

学生の頃沖縄の離島で住み込みのアルバイトをしていた。ダイビングショップで、夕方使いつわったタンクに空気を詰めているところから三線の音が聞こえてくる。それを聞き、夕焼けを見ながら一人佇む。そんな毎日を繰り返しながらこの島の暮らしは素敵だと思った。

どこがどう結びついたのかそんな島の暮らしに憧れ、自分なりに再現したら農業になった。農業は想像していた通り大変で楽しい。失敗し、動物に野菜を食べられ涙するときもあるけど、実った野菜や稲架掛けした稲を見るとあの時のイメージを思い出す。そして農業で間違ってたと思う。

(2015年8月記)



百姓屋つぐみ 芦沢 真承

就農:平成21年1月 畑の場所:富士宮市 下条
栽培面積:畑170a 田20a 栽培作物数:60種類
主力作物:味噌、人参ジュース、安納芋
連絡先:tabinnchu.eshizuoka.jp/

「Story of seed」

皆さん、生活の中で種と接する時間は少ないと思っ
ていますよね。でも、食卓に並ぶ食事をよく見てみて下さい。白いご飯、これは稲の種、お味噌汁、これは大豆の種、醤油は大豆の種、パンやうどんは小麦の種、そばは、そばの種、野菜も野菜の種から育ちます。ビールも麦の種からです。ね、種ばかりでしょ。種は私達の命と密接に繋がっているのです。

私達有機農家は、出来る限り種採りをします。何故かわかりませんが？買うとお金が掛かるからでは無いのです。種は育つた環境を記憶するのです。土の事、気温や雨、蒔かれた時期、蒔いた農家の事、すべてを覚えていきます。なので種採りをした種を同じ畑に蒔くと、とても元気に育ちます。よく伝統野菜は美味しいと言われますが、その地域で何年もの長い間、種採りをし続けているからでしょう。京都の伝統野菜の種を富士宮

に蒔いても最初は美味しく育たなかったりします。

以前、相手と種を蒔いた時の出来事ですが、ちょっとした口喧嘩をしながら蒔いた時の種が、全く発芽しなかった事がありました。

また別の時、沢山作ってやろうと欲望むき出しで蒔いた種もまばらにしか発芽せず、ほとんど収穫できませんでした。種は人の心も感じ取っているのかもしれない。とても神秘的な生き物なのです。

さあ皆さん、種に興味を持ち始めましたか？

まずは一粒でも自分の手で種を蒔いてみましょう。大切な事は、優しく愛情を注いで育ててあげる事です。きっとあなたにとって世界一美味しい野菜に育つことでしょう。

そして一番大切な事は、その野菜の種を採って未来へ繋げる事なのです。命の種を未来へ繋げましょう。

(ファームハーモニア)

鈴木一正